

快光院だより

令和7年秋彼岸 第134号

浄土宗
Jodo Shu
Buddhist Denomination

○秋期彼岸法要のご案内

9月23日(火) 午後1時半より彼岸法要
午後2時より法話

9月24日(水) 午後1時より法話

※23日の彼岸法要の勤行はございません。

布教師

大本山善導寺布教師

島原市崇台寺御住職 安藤竜順上人

○大施餓鬼法要のご案内

9月24日(水) 午後2時半頃より

阿難尊者の延命転寿の説話にもとづいて、一切の餓鬼に飲食を施し先亡追善回向を致します。

※お申し込みは前日までをお願いいたします。

※お申し込みはお電話でも承ります。

至心称名 南無阿弥陀仏

暦の上ではそろそろ暑さが収まる頃との「処暑」が過ぎた後もとてもではない暑さの日々が続き皆様方の体調維持お察し申し上げます。

如何お過ごしですか。梅雨期の少雨続き、お盆前から梅雨時の様な大雨やゲリラ豪雨が国内各地、九州でも福岡、熊本、鹿児島の三県を中心に起き年々の悲しい報道は誠に辛いものです。

令和元年晩秋号にも記載していましたが、昭和28年6月末の西日本豪雨では筑後川本流が決壊、夜明け前から瞬く間に筑紫平野が水没し大水害となりました。自宅傍の高い火の見柱の半鐘がけたたましく鳴り響き、とっさの事で私共一家は着の身着のまま隣家の二階へ避難、次第に水嵩が増し此処も危険となり、さらに高い隣家に移るため窓から窓へ梯子を架け、母は背中にそのまましがみついた私(当時5歳)を、落ちたら終わりの濁流を眼下に梯子に這いつくばり命がけで運びました。他2人の姉妹はおそらく隣家の人達が必至で守り母と同様に運んでくださったのでしょう。自分のは覚えているのですが姉妹のことは覚えていないのです。

今私共兄弟三人離ればなれでもこうして居ら

れるのも隣近所の方々、諸々の方々のお陰です。家族の安否を心配していた小柄な父は一番最後に得意の壁上りで自力で這い上り無事でした。

翌朝になると自衛隊の方々が船で町内を巡回し船上から握りご飯を二階の私達へ直接手渡してくださいました。それほど深く水没していたのです。その後長い時間が経ち最安全な「大本山善導寺」へ避難しました。すぐ前の大門から山門間の数十メートルはプールのように水没していたので船で渡り、着いた大殿(本堂)は避難の人達で一杯で互いに無事を確かめ合いしばらく本山で過ごした後我が家へと帰って行きました。泥水が引いた後の家の中は現在の様に多くの車両や電化製品、家裁道具、生活用具など現在の比では有りませんが当時なりに大変な事だったと思います。

10月末は浄土宗島原組で大本山善導寺、国立九州博物館(法然上人特別展)など筑紫路巡りのバス旅行もあります。秋のお彼岸法要など以下にお知らせ申し上げます。長期間大変な暑さに体も痛めつけられ何れ季節の変わり目も迎えます。お体呉々も御自愛なされてください。

合掌

令和七年九月中旬 快光院住職 永野寶信

「人は往く」 永野至信

先日、ある和尚様の法話を聴く機会がございまして、その中で花の終わりを表す言葉についてお話がありました。一般的に用いられるのは「散る」という動詞で、花が散ると普段使いますが、その和尚様いわく花の種類によっては「散る」以外の言葉があるそうで、それが「桜散る」「梅はこぼれる」「椿落つ」「牡丹崩れる」という言葉だそうです。

桜にはそのまま「散る」が用いられますが、他の花にはそれぞれ違う表現がなされています。調べると例えば椿は花全体が丸ごと落ちることから「落(お)つ」を使い、牡丹(ぼたん)は花びらが一枚一枚次々に落ちていく様子が崩れていくように見えることから「崩れる」を使うそうです。このように花それぞれに散り方があり、その様子に合う表現がなされていることに日本語表現の豊かさを感じます。

続けて和尚様は私たち「人」にも最期を表す言葉があるとお話しされました。何だと思いませんか。その言葉というのが「人は往く」でした。私たちの命は限りあるものですが、命の最期を「死ぬ」と言うのではなく「往く」と言うのです。こう聞くと何だかこの世で終わった命が再び「往く先」で始まるような、「死んだら終わり」ではないと伝えている言葉に思います。

お盆が過ぎお彼岸が近づいてまいりました。お彼岸もまた「往く先(浄土)」におられる方々へ手を合わせ、私たち自身も「往く先(浄土)」へ迎えていただけるよう手を合わせる機縁でございまして。どうぞお参りください。

「桜散る 梅はこぼれる 椿落つ 牡丹崩れる 人は往く」。

～ 大本山善導寺参拝・特別展「法然と極楽浄土」(九州国立博物館) 観覧 ～

一泊二日研修旅行の御案内

この度、島原浄土宗寺院 7 ヲ寺で大本山善導寺での研修並びに九州国立博物館での特別展「法然と極楽浄土」観覧を企画しました。善導寺ではご法主台下によるご教示や諸堂案内も予定されています。人数が限られておりますが、この機縁にご参加いただければ幸いです。ご検討の程よろしく願いいたします。

○期日：令和7年10月27日(月)、28日(火)

一日目：午前9時半島原出発→久留米にて昼食→大本山善導寺参拝→二日市温泉「大観荘」にて一泊

二日目：九州国立博物館にて特別展「法然と極楽浄土」鑑賞→福岡柳川にて昼食→17時頃島原到着

○定員：定員40名(各寺院5～6名ほど) ○旅費：30,000円 ○申込締切：令和7年9月末まで

お知らせ

今年の6月17日に爆心地近くの聖徳寺様にて原爆犠牲者・戦歿者80年慰霊法要が執り行われました。御導師を大本山善導寺法主・日下部台下が勤められ、約200名の参列者と共に厳かに法要が勤められました。この度、その際の法要並びに大本山善導寺法主・日下部台下による御親教、長崎市役所二胡愛好会様による二胡の演奏が「YouTube」で視聴可能となっております。

右のQRコードから
視聴できます。



お寺行事

- 9月18日 当寺観音堂御縁日(午後2時)
- 9月23～24日 当院彼岸法要・大施餓鬼会
- 10月27～28日 檀信徒研修旅行 於善導寺
- 10月25日 当寺別時念仏会(午後2時)

浄土宗 演暢山 快光院

〒855-0851

長崎県島原市萩原1丁目1227番地

電話：0957-62-2742

Fax：0957-64-6624

Mail：kaikoin.temple@gmail.com

郵便振替：01770-4-92594